IoTプロトタイプ制作勉強会#2

【Arduino + フルカラーシリアルLED】

入出力

Arduinoは様々な入出力部品を取り付け動作させることが出来ます。 Arduinoでの工作は何かを入力(センシングなど)して何かを出力する (LEDを光らせるなど)パターンが多くなります。

入力例:タクトスイッチ、ボリューム抵抗(半固定抵抗)、 光センサ(CDS)、温度センサ

出力例:LED(単色)、ピエゾスピーカー、サーボ、フルカラーLED



タクトスイッチ



ボリューム抵抗 (半固定抵抗)



光センサ(CDS)



温度センサ



LED(単色)



ピエゾスピーカー



サーボ



フルカラーLED

フルカラーシリアルLEDテープ

信号線1本で制御できるフルカラーLEDテープです。1つひとつ個別に色の制御が出来ます。定格電圧も5VのためArduinoからも扱いやすいです。



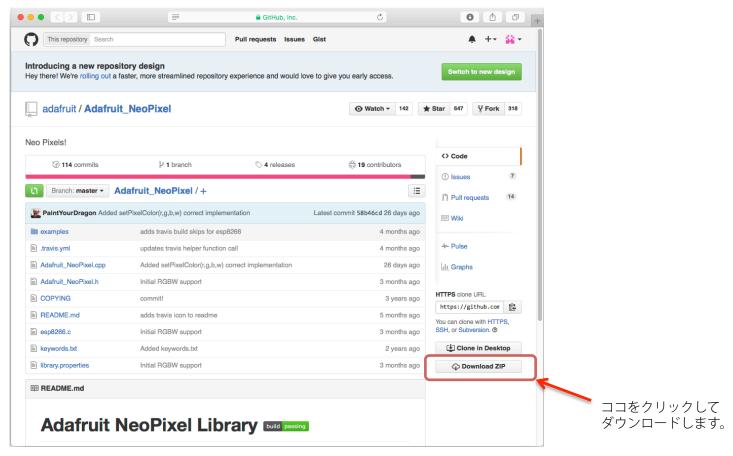
フルカラーシリアルLED (5セル分)



フルカラーシリアルLED 1m (60セル分) https://www.switch-science.com/catalog/1399/

Adafruit NeoPixelライブラリ

デバイスメーカーのAdafruitがフルカラーシリアルLEDをArduinoで容易に扱うためのライブラリを公開しています。

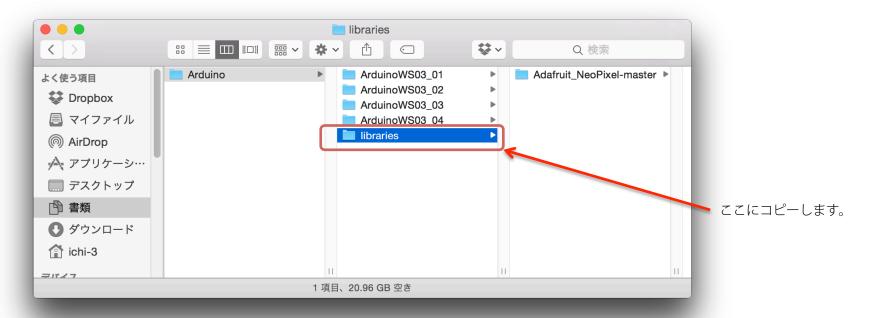


https://github.com/adafruit/Adafruit_NeoPixel

ライブラリの導入

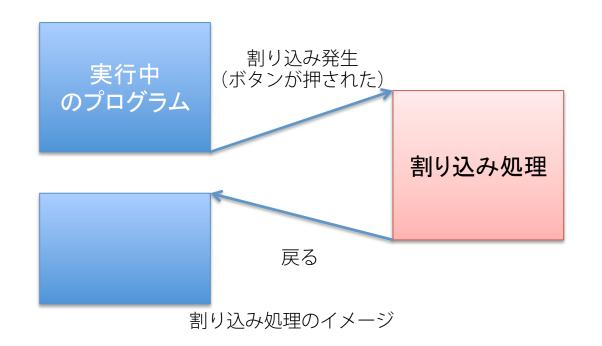
デバイスメーカー等が配布しているライブラリは「Arduinoフォルダ」 直下の「libraries」フォルダにコピーします。

コピー後にArduinoIDEを再起動するとメニューの「スケッチ」→「include Library」に「Adafruit_NeoPixel」が追加されます。



外部割り込み処理

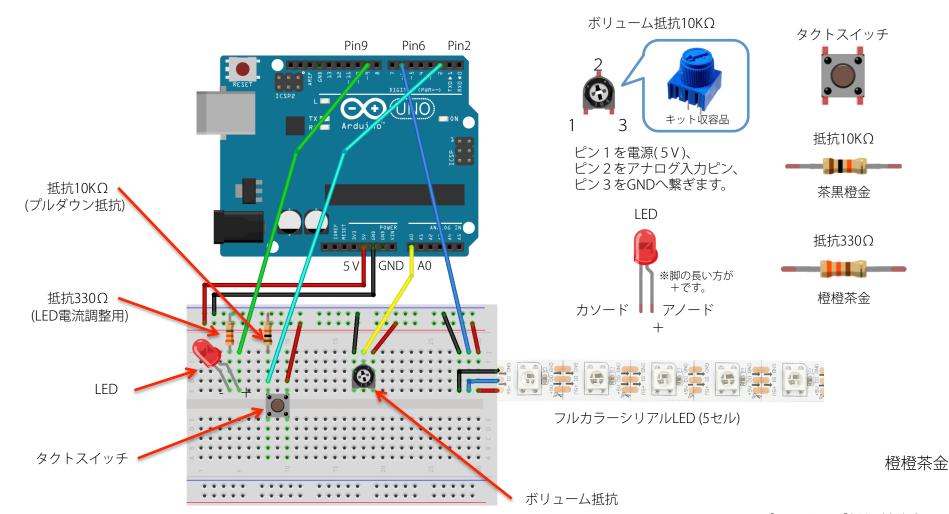
Arduinoのデジタルピン2番3番は入力電圧の状態変化をトリガとして関数 (割り込み関数)の呼び出しを行うことが出来ます。loop()関数からピンの状態を監視するよりも確実にピンの状態変化を検出することが出来ます。今回は、ボタンが押されたことの検出に使います。



Arduino 日本語リファレンス: attachInterrupt(interrupt, function, mode) http://www.musashinodenpa.com/arduino/ref/index.php?f=0&pos=3045

フルカラーシリアルLED:回路

入力用センサとしてボリューム抵抗とボタン(タクトスイッチ)、 出力デバイスとしてフルカラーシリアルLEDと単色LEDを接続します。



フルカラーシリアルLED:コード①

各種

定義・宣言

初期化

```
Arduinioメニューから選択で自動で書き込まれます。
#include <Adafruit NeoPixel.h>
                                            \lceil \lambda \wedge \gamma + 1 \rangle \rightarrow \lceil \text{Include Library} \rceil \rightarrow \lceil \text{Adafruit NeoPixel} \rceil
#define LED NUM 5
                           LED 数
#define TAPE CONTROL 6
                             制御ピン番号
//テープLEDライブラリのAdafruit NeoPixelのインスタンス作成
// Parameter 1 = number of pixels in strip
// Parameter 2 = pin number (most are valid)
// Parameter 3 = pixel type flags, add together as needed:
    NEO RGB Pixels are wired for RGB bitstream
    NEO GRB Pixels are wired for GRB bitstream
    NEO_KHZ400 400 KHz bitstream (e.g. FLORA pixels)
                                                                   LED数 5 制御ピン 6を指定
    NEO KHZ800 800 KHz bitstream (e.g. High Density LED strip)
Adafruit_NeoPixel strip = Adafruit_NeoPixel(LED_NUM, TAPE_CONTROL, NEO_GRB + NEO_KHZ800);
                                               Adafruit NeoPixelクラスのインスタンスを
float s = 1.0; //彩度
                                               stripという名前で作成
                         彩度・明度は固定
float v = 0.50; //明度
int r,g,b; //RGB値
int rgbSts[LED NUM][3]; //各LEDのRGB値記録用配列
                                                  LED数(5) x RGB値(3)の2次元配列
int setCntr; //現在操作中のLED番号
int buttonLedPin = 9; //単色LED用ピン番号
bool interruptStat; //割り込みステータス
                                           ボタンが押されたかどうかの判断に使用
void setup() {
  //現在操作中のLED番号の初期化
 setCntr=0;
                              初期状態は0番
 //LEDのRGB情報の初期化
 for(int i=0; i<LED_NUM; i++) {</pre>
    rgbSts[i][0] = 0;
                              すべてのLEDを消灯
    rgbSts[i][1] = 0;
    rgbSts[i][2] = 0;
                                                                        IoTプロトタイプ制作 勉強会 #2
```

フルカラーシリアルLED:コード②

```
//テープLED制御の開始
                                                         LEDについて何か設定を行った後に、show()関数
              strip.begin();
              strip.show(); // Initialize all pixels to 'off' ✓
                                                         を呼ぶことで設定を反映させる
              //デバッグ用シリアル通信の初期化
              Serial.begin(9600);
              Serial.print("LEDs: ");
              Serial.println(strip.numPixels());
  初期化
              //割り込みを設定:割り込み番号0(Pin2),呼び出す関数 interrupt(),モード 電圧の立ち上がり
              attachInterrupt(0, interrupt, RISING);
              //割り込みフラグの初期化
                                                      Pin2に接続されたボタンが押された時に関数
              interruptStat = false;
                                                      interrupt()を呼び出すように設定
              //単色LEDピンのピンモードを出力に設定
              pinMode(buttonLedPin,OUTPUT);
             void loop() {
              //割り込みがあったかチェック
             if(interruptStat){
                                  ボタンが押されたらカウントアップして
              //カウンターアッフ
                                 操作対象のLEDをひとつ移動させる。
              setCntr++:
              //LED個数を超えていた場合のにする
              setCntr=setCntr % LED NUM;
メイン処理
              //単色LEDを目印として光らせる
              digitalWrite(buttonLedPin,HIGH);
   の記述
              delay(300);
              digitalWrite(buttonLedPin,LOW);
              //割り込みフラグをリセット
              interruptStat=false;
                                  フラグを戻す
```

IoTプロトタイプ制作 勉強会 #2

IoTプロトタイプ制作 勉強会 #2

フルカラーシリアルLED:コード③

```
//ボリューム抵抗の読み取り
int temp01 = analogRead(A0);
                                   ボリューム抵抗の値(0~1024)を取得して、
//デバッグ用にPCへシリアルで送信
                                   色相(0°~360°)として使用する。
Serial.print("A0: ");
Serial.print(temp01);
//読み取ったリューム抵抗の値から色相を計算
int h = map(temp01, 0, 1024, 0, 360);
                                  map()関数で0~1024を0~360に変換。
//デバッグ用にPCへシリアルで送信
Serial.print(" h: ");
Serial.print(h);
//HSV(色相・彩度・明度)からRGBを計算
hsv2rgb(h,s,v);—
                                  HSVからRGB値を計算する関数を呼び出す。
//デバッグ用にPCへシリアルで送信
                                  RGB値はグローバル変数の int r,q,b に格納されます。
Serial.print(" r: ");
Serial.print(r);
Serial.print(" _ g: ");
Serial.print(g);
Serial.print(" _ b: ");
Serial.println(b);
//求めたRGB値を現在操作中のLED番号に設定
rgbSts[setCntr][0] = r;
                             ボタンを押す毎にカウントアップされ
rgbSts[setCntr][1] = g; 
                             るsetCntrが現在操作中のLEDを示して
rgbSts[setCntr][2] = b;
                             います。
//LEDの発光状態の設定
strip.setPixelColor(setCntr, rgbSts[setCntr][0], rgbSts[setCntr][1], rgbSts[setCntr][2]);
//設定を反映させる
                                              LEDの色を設定する関数
strip.show(); ___
                 設定+反映で実際に色が
                                              引数は、(LED番号, R値, G値, B値)です
                 変化します
delay(100);
              100ミリ秒待機
```

メイン処理 の記述

フルカラーシリアルLED:コード④

```
HSV(色相・彩度・明度)からRGBを計算する関数
RGBの戻り値はグローバル変数に記述
void hsv2rgb(int h , float s , float v){
 int i , lr , lg , lb , vi;
 int p1 , p2 , p3;
                                 HSVからRGBへの変換は以下のサイトを参考にしました。
 float f;

    http://maicommon.ciao.jp/ss/Arduino_g/PWM/index.htm

 i = (int)(h / 60.0);

    http://www.peko-step.com/tool/hsvrab.html

 f = h / 60.0 - i;
 p1 = (int)(v * (1.0 - s) * 255.0);
 p2 = (int)(v * (1.0 - s * f) * 255.0);
 p3 = (int)(v * (1.0 - s * (1.0 - f)) * 255.0);
 vi = (int)(v * 255.0);
 if(i == 0) {lr = vi ; lg = p3 ; lb = p1;}
 if(i == 1) {lr = p2 ; lg = vi ; lb = p1;}
 if(i == 2) \{lr = p1 ; lg = vi ; lb = p3; \}
 if(i == 3) \{lr = p1 ; lg = p2 ; lb = vi; \}
 if(i == 4) {lr = p3 ; lg = p1 ; lb = vi;}
 if(i == 5) {lr = vi ; lg = p1 ; lb = p2;}
 r = lr:
 g = lg;
 b = 1b;
割り込み処理で呼ばれる関数
                                ボタンを押すと呼ばれます
割り込みがあったことを示すフラグを立てる
void interrupt() {
 interruptStat = true;
```

ボタンが押されたフラグ interruptStatをtrue

割り込み 関数

ユーザ定義

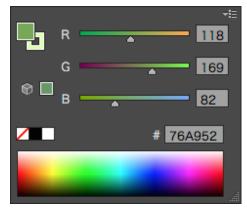
関数

IoTプロトタイプ制作 勉強会 #2

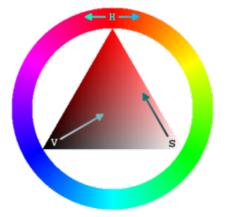
補足:RGBとHSVによる色の指定

フルカラーLEDは赤(R)緑(G)青(B)三色のLEDから構成されており、その色を決めるには、三色それぞれの発光具合を指定して行います。これをRGB方式といいます。ハードウェア的な仕組みから言えば合理的な方法ですが、人の感覚ではイメージし難い方法です。

一方、色相(H)彩度(S)明度(V)で色の定義を行うHSV方式は人がイメージしやすく、連続して色の変更を行う場合などに扱いやすいものです。 そのため、本サンプルではHSVからRGBへ変換する関数を使用しています。



RGBによる色指定



HSVによる色指定

下記サイトのHSV→RGB変換を参考にしています。 http://maicommon.ciao.jp/ss/Arduino_g/PWM/index.htm http://www.peko-step.com/tool/hsvrgb.html

IoTプロトタイプ制作勉強会#2 【購入部品選定】

部品を選ぼう

よく利用される電子部品の通販サイトです。

・スイッチサイエンス

SWITCHSCIENCE

https://www.switch-science.com

Arduinoといえばここ。各種センサ、サーボも豊富、価格高め。 Raspberry Piも買えます。

・RSコンポーネンツ <u>http://jp.rs-online.com/web/</u> Raspberry Piの本家



・秋月電子通商 <u>http://akizukidenshi.com/</u>



電子部品一般。

ACアダプタ、ユニバーサル基板、LED、振動モータなどが豊富オリジナルのキットが豊富(安定化電源キットなど)

部品を選ぼう

・ストロベリー・リナックス

Strawberry Linux

http://strawberry-linux.com

電源関係(DC-DCコンバータ)、 ステッピングモータドライバなどのオリジナル基板が得意

• 千石電商



http://www.sengoku.co.jp

電子部品一般。配線材、コネクタ類が秋月より豊富。

・オヤイデ電気 http://www.oyaide.com/ja ケーブル専門店



HobbyKing



http://www.hobbyking.com/hobbyking/store/index.asp ラジコンパーツ店。サーボが豊富で安い。 ただし、海外のため送料・関税に注意。